

「変形菌の世界 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

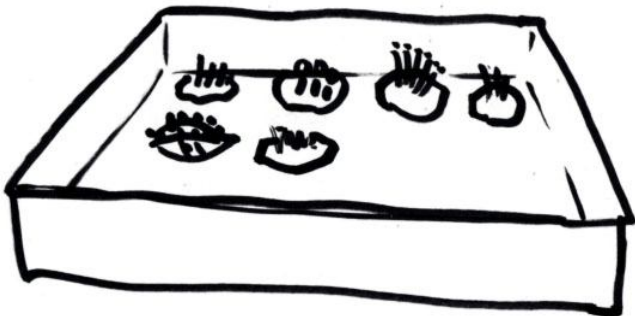
大学生の頃、国立科学博物館主催の野外自然観察教室によく参加していた。「雑木林の樹木を、樹皮だけで見分ける会」「東京のカタクリの観察会」「玉川上水の植物観察会」など、どれも興味深くフィールド観察の基本を学んだように思う。中でも「高尾山の変形菌観察会」というのがとても印象に残っている。

私は高校時代からキノコの研究が好きで、キノコに関しては今よりも正確に同定できた。しかし「変形菌」の知識は全くなく、「菌」とつくのだからキノコに近い仲間だろうということで、ホイホイ参加したのだ。当日の「持ち物」が面白かった。当時のパンフレットが奇跡的に残っていたのだ。

【変形菌観察会の持ち物】

- ・メモ帳と筆記用具
- ・ルーペまたは虫メガネ
- ・はさみ、マイナスドライバー
- ・紙の空き箱 (20cm~30cm 程度のもの)
- ・木工用ボンド
- ・カメラ、図鑑など・・・

標本用のキノコ採集の場合は、ポリ袋が必携である。しかしそれはなく、「紙の空き箱」とある。それに「木工用ボンド」とは何に使うのか？私はわけもわからずに、高尾山口駅に集合した。



参加者は、小学生、私のような初心者、変形菌のベテランまで、総勢 30 人ぐらいだったと思う。「紙箱」と「木工用ボンド」との使い道はすぐにわかった。変

形菌を採集して、その菌床 (枯れ葉や朽ち木) ごと、その場で木工用ボンドで紙箱に貼っていくのである。変形菌の子実体 (胞子を作る部分) は、脆く崩れやすい。ポリ袋に入れて持ち帰ると”complete distraction”となってしまう、価値がなくなってしまうのだ。

当時私は八王子市郊外に住んでいて、高尾山は身近な山だった。しかしそんな場所に、実に多様な変形菌という「やつら」が多数存在していることに驚いた。高尾山が特別な場所というわけではなく、都内の公園や学校にもたくさん「いる」という。私はそれ以来「変形菌」を恐れていた。「こんなものに夢中になったら、絶対に変形菌の世界に引き込まれてしまう！」という恐れである。



ところが、それから 35 年も経って、その「恐れ」が的中してしまった。私の北軽井沢の山荘は昭和 47 年築のボロい小屋だが、敷地だけはバカみたいに広い。その裏の森で、ついに「変形菌との再会」を果たしてしまったのだ。それは、恐らく、最も有名な変形菌の一つである。



これは「ムラサキホコリ」という変形菌の子実体である。変形菌には「ホコリ」とつく和名のものが多い。まさにコイツに出会うのを恐れていたのである。